

MAUVAIS SANG



汚れた血



1986年 フランス映画 カラー 35ミリ 2時間5分

監督-レオス・カラックス

出演-ジュリエット・ビノシュ/ドニ・ラヴァン/ミシェル・ピコリ

主題歌-「モダン・ラブ」デヴィッド・ボウイ

配給-ベストロン映画 提供-ユーロスペース

1986年ルイ・デリュック賞

1987年ベルリン映画祭アルフレッド・バウアー賞

少年は金庫を、少女は錠を破った。

愛は伝染する。



Supported by

AGF Blendy

MAUVAIS SANG

汚れた血

監督+脚本=レオス・カラックス

製作=アラン・ダアン/フィリップ・ディアズ

撮影=ジャン=イヴ・エスコフィエ

セット・デザイン=ミシェル・ヴァンドステイン

衣裳=ロベール・ナルドゥス

音楽=ベンジャミン・ブリテン/プロコフィエフ

チャーリー・チャップリン

歌=「モダン・ラブ」デヴィッド・ボウイ

シャルル・アズナブール/セルジュ・レジアニ

LES FILMS PLAIN CHANT/SOPROFILMS

FR3 FILMS PRODUCTION製作



出演=ジュリエット・ピノシュ(アンナ)

ドニ・ラヴァン(アレックス)

ミシェル・ピコリ(マルク)

ジュリー・デルビー(リーズ)

ハンス・メイヤー(ハンス)

キャロル・ブルックス(アメリカ女)

セルジュ・レジアニ(チャーリー)

ミレイユ・ペリエ(若い母親)



1986年 フランス映画 カラー(フジ・フィルム) 35ミリ

ヴィスタ・サイズ 2時間5分

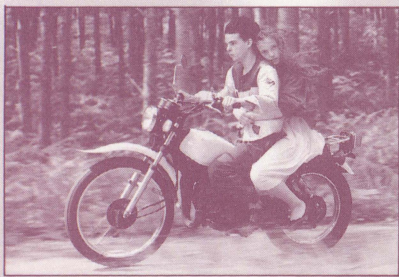
1986年ルイ・デリュック賞

1987年ベルリン映画祭アルフレッド・パウアー賞



配給=ベストロン映画

提供=ユーロスペース



ピーディーでかつリリカルなストーリー展開の中、夜が走り、愛が呻く。レオス・カラックス監督のこの「汚れた血」が、「興奮させ、しびれさせる最も感覚的な映画」と絶賛されたのは当然なのである。

❖カラックスは22歳の時に白黒映画ながら豊かな色彩感覚にあふれた長編処女作「ボーイ・ミーツ・ガール」でデビュー。「ディーバ」のジャン=ジャック・ベネックスや「サブウェイ」のリュック・ベンソンなどに続いて「ネオ・ヌーヴェルヴァーグの真打ち登場」とささやかれていた人物だが、2作目の「汚れた血」で、その評価は決定的なものとなった。新感覚のフィルム・ノワールの形態を取りながら、フランス映画伝統の「男女の愛」からも目をそらさず大団円に向けていく姿勢は、同じ「フィルム・チャイルド」でも、スピルバーグ率いるアンブリン映画人などとはあまりにも違っている。ゴダールの「勝手にしやがれ」で「虚無よりも傷心が好き」なジャン=ポール・ベルモンドが鮮烈な印象を与えたように、「汚れた血」のカラックスの分身ドニ・ラヴァンも「倦怠はもはや俺の愛するところではない」とばかりに、必然的なラストに走っていくのだ。それを見つめるカメラの、まるで生き物のような自由自在ぶり! デヴィッド・ボウイの「モダン・ラブ」丸々一曲分の横移動長回し撮影や、全編漆黒に塗られた背景に鮮やかに浮かぶ赤い色、アウト・フォーカスによる遠近感の見事さ、と見どころに事欠かない。

❖主人公アレックスを演じるのはカラックスと同じ26歳のドニ・ラヴァン。「ボーイ・ミーツ・ガール」で自室の壁に「自分史地図」を書きした少年が、よりセンシティブで不可解な若者に成長し、彼以外には考えられないキャラクターでテーマに深みを与えている。アレックスの父の友人で、アレックスの才能を犯罪に利用する初老の男マルクにミシェル・ピコリ。ベテランならではの抑えた演技が見事だ。そして、マルクの情婦でありアレックスの憧れの女に扮するのがジュリエット・ピノシュ。アンドレ・テシネ監督の「ランデヴー」でも2人の男に愛される宿命の女を演じていたジュリエットは23歳にして、カトリーヌ・ドヌーヴを始めフランスの映画人が「今、最も共演したい俳優」のトップに名を挙げる存在になった。彼女の少女のような喋り方、ボブ・カットの前髪を息で吹き上げるポーズ、そしてラストの疾走シーンは、きつと後々まで語り草になることだろう。

❖撮影のジャン=イヴ・エスコフィエは「ボーイ・ミーツ・ガール」の白黒撮影と、今回のカラー撮影で、カラックス監督の夢世界をそれぞれのフィルムの持ち味を生かして見事に撮り上げた異才。ミッシェル・ヴァンドステインの徹底的に様式にこだわったセット・デザインも、「汚れた血」の高い評価に貢献している。

❖なおこの映画は、ルイ・デリュック賞、87年ベルリン映画祭のアルフレッド・パウアー賞を受賞。フランスのアカデミー賞であるセザール賞でも2年連続のジュリエット・ピノシュを始め、ほとんどの部門にノミネートされている。

●ものかたまり

❖あと数年で21世紀を迎えようというパリ。慧星が接近しているため、夜でもおそろしく暑い。そして人々は愛のないセックスによって感染する新しい病氣「STBO」の蔓延におそれおののいていた。

❖天涯孤独となった少年アレックス(ドニ・ラヴァン)は、どこか別の場所で、新しい人生を送りたいと思っている。ガールフレンドのリーズ(ジュリー・デルビー)と過ごす、愛のひとときは彼には無意味で、ただここから抜け出せればよかった。

❖中年の男マルク(ミシェル・ピコリ)と美少女アンナ(ジュリエット・ピノシュ)に誘われアレックスは脱出のための金欲しさに、犯罪に手を貸す。マルクは亡き父親の友人で、アンナはマルクの情婦。いつしか、アレックスはアンナを愛するようになるのだが……。

●夜が走り、愛が呻く

❖衝撃は予告なしでやって来た。

❖21世紀の足音が聞こえるパリ。ふとしたことから知り合った男と女と男の、永遠に結ばれないトライアングルを、26歳の天才監督がとんでもなく素晴らしい映画に仕立て上げたのだ。かつて無かった斬新な画面作り、ス

88年2月よりロードショー!

特別鑑賞券1200円(当日・一般1500円/学生1300円のところ) 絶賛発売中

当劇場窓口および都内各プレイガイド、チケットぴあ他にてお求めください。

公園通りパルコ3前 tel.(464)0052

シネマライズ・渋谷

上映時間 連日 11:30 1:55 4:20 6:45 ●レイトショー/毎土曜PM9:10より実施